

### 3 ひやまのゼロカーボン ～振興局の率先行動～

檜山振興局では、令和4年度（2022年度）に公用車として電気自動車（EV）を導入し、併せて、その電源として活用するための太陽光発電設備（ソーラーカーポート）を設置しました。これにより、使用エネルギー生産時及び走行時にCO<sub>2</sub>を排出しない、ゼロカーボンドライブを実現。EVは地域の脱炭素化に資するため、閉庁日（土日祝日）に住民や旅行者の皆さんに有料で貸し出しをしています。

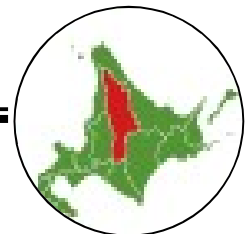
また、蓄電池から庁舎へ、EVから外部へ電力供給が可能となったため、災害時等の地域のレジリエンス向上にも資する取組です。

このような道の率行的取組を多くの地域の方々に認知してもらい、ゼロカーボンに係る気運を高めるため、今後は、地域イベントへの出展などにも取り組みます。

■ソーラーカーポート俯瞰



## ＝【上 川】＝



### 1 「かみかわ版ゼロカーボン北海道」に向けた普及啓発イベントの実施

上川総合振興局では、上川の地域資源を活かしたゼロカーボンの意識を醸成することを目的に、各種プロモーションを実施しており、令和4年度においては、管内2箇所ゼロカーボンパネル展を4回開催したほか、管内6箇所で普及啓発イベントを7回実施しました。

令和4年（2022年）9月17日に開催された「食べる・たいせつフェスティバル 2022in 旭川（主催：生活協同組合コープさっぽろ）」では、多くの道民に対し気候変動対策や食品ロス、木育等について関心と理解を深めていただくために、ゼロカーボンに関する体験教室やパネル展示を行う啓発ブースを出展し、「かみかわ版ゼロカーボン北海道」に向けた機運醸成を図りました。

■「食べる・たいせつフェスティバル 2022in 旭川」啓発ブース内の様子



(木製ソーラーカーづくり)



(上川のお米脱穀体験)



(森林認証材マグネットづくり)

## 2 「ゼロカーボン北海道出前講座」の実施

ゼロカーボンの新たな取組の芽を育成していくことを目的に、「ゼロカーボン北海道出前講座」を実施しており、令和4年度は若年層をメインターゲットとし、地球温暖化のメカニズムや影響、国内外の気候変動対策に関する動向等の基礎的知識に加え、ゼロカーボン北海道の実現に資する多様な取組等について講義を行いました。

令和4年（2022年）8月には、関係教育局と連携し、石狩・上川・留萌管内の中高生14名を対象に、10月には、振興局新規採用職員24名、11月には、管内の小学校2校の協力のもと、5年生26名・6年生85名の児童を対象に行いました。このほか、管内市町村や民間企業・団体等からの依頼により、管内3箇所・約260名を対象にゼロカーボンに関する講演を行っています。

■出前講座の様子



## 3 大雪山の貴重な自然環境を保全する取組の実施

大雪山国立公園の旭岳裾合平<sup>すそあいだいら</sup>は、初心者でも訪れやすいうえに、広大なお花畑が広がる公園屈指の景勝地です。しかしながら、気象変動や管理体制の弱体化により登山道の荒廃やそれに伴う高山植物の減少が進んでいます。

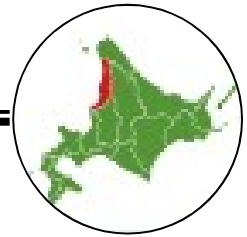
令和4年度（2022年度）は、この裾合平の植生復元のため、また、登山道の荒廃を止めるために、クラウドファンディングを活用し、集まった寄附金で、補修資材の購入と登山道補修イベント（2回実施、計79名参加）を行い、補修が必要な約600mの木道のうち約110m分を手当できました。

このクラウドファンディングは一般登山者と山岳関係者、行政が協働で行う保全の取組と大雪山の魅力を発信するプロジェクトであり、令和5年度（2023年度）も集まった寄付金の額に応じて実施します。

■R4 登山道補修イベントの様子



## ＝ 【留 萌】



### 1 増毛山道再生と保全の取組

日本海に面し断崖絶壁が続く雄冬海岸（雄冬岬）は、かつて茂津多岬、神威岬とともに西蝦夷地三険岬と呼ばれた交通の難所でした。この海岸線を迂回すべく、安政4年（1857年）に江戸幕府の命を受けた増毛漁場請負人の商人 伊達林右衛門によって開削された道路が「増毛山道」です。

この山道は、その後の交通機関の発達等により、次第に利用者が減少し、昭和16年（1941年）の武好駅逓<sup>※1</sup>（ぶよしえきてい）の廃止以後は利用する人もほとんどなくなり、いつしかネマガリダケ（チシマザサ）の藪に埋もれてしまいました。しかし、平成21年（2009年）から留萌振興局とNPO法人増毛山道の会が協働でその再生事業に着手し、その後、地元自治体や石狩振興局など関係機関の協力を得ながら、8年の歳月をかけ平成28年（2016年）10月、石狩市浜益区幌から増毛町別対までの全線28km<sup>※2</sup>の復元が完了しました。平成30年（2018年）11月には、石狩市の「濃屋（ごきびる）山道」と合わせて北海道の近代化に果たした歴史的役割やその機能を体感できる貴重な山道として評価され、北海道遺産に選定されています。毎年開催している増毛山道の会による山道体験トレッキングでは、暑寒別天売焼尻国定公園内の豊かな自然や増毛山地の山並、日本海の眺望のほか、武好駅逓跡、当時の電信柱、橋の石積み跡、仏様の台座、遠く三河産花崗岩で造られた水準点標石等、北海道開拓を物語る多くの歴史的遺構を見ることができます。

また、令和4年度（2022年度）には、増毛山道の歴史やその再生と保全に携わる人々の歩みを知ることができる展示室が旧増毛小学校の校舎に完成しましたが、その資料集めから設営までを増毛山道の会会員自らが行いました。今後、展示室は、町のイベントや山道の体験トレッキングの開催などに合わせた公開を予定しています。

（注）※1 駅逓（所）とは明治期に作られた北海道独自の制度で、宿泊・人馬継立・郵便等の業務を担った施設。

※2 増毛町岩尾までの分岐道を加えると全長約33km。

■山道体験トレッキングの様子



■増毛山道展示室



## 2 ゼロカーボンるもい機運醸成事業

留萌振興局では 2050 年ゼロカーボン北海道の実現に向けて、「ゼロカーボンるもい機運醸成事業」に取り組んでいます。令和4年度（2022 年度）は、各市町村や地域の企業と連携し、次の取組を実施しました。

### （1）将来の環境人材育成

環境について知識の習得や理解促進を図り、自ら行動できる人材の育成を目的とし、小学生を対象とした環境教育を行いました。天塩町では、地球温暖化に関する講話と再生可能エネルギーを使った工作体験を実施し、遠別町ではさらに、環境に優しい粘土を用いた作品制作を行いました。

また、留萌教育局の主催で、振興局・高校・大学が連携し、留萌管内の高校生がゼロカーボン実現に向けた課題を探究する「留萌高校・北海道大学SDGs・ゼロカーボンプロジェクト」が行われ、高校生が留萌管内の風力発電所やゴミ処理施設を見学するフィールドワーク等を通して探究の成果を発表しました。

### （2）学びの場の提供

ゼロカーボンに関する学習機会を創出し、興味関心の向上を図るために、図書館や書店等と連携しゼロカーボンフェアを実施しました。地球温暖化やゼロカーボンについて、北海道の「省エネ3Sキャンペーン」イメージキャラクター「環境忍者えこ之助」と留萌管内8市町村のイメージキャラクターが解説するパネルを作成し、環境関連の書籍とともに管内全市町村で展示したほか、ゼロカーボンに関する絵本や紙芝居を用いた地元の高校生や団体による読み聞かせイベントを実施しました。

### （3）大人向け普及啓発

一般住民に対するゼロカーボン学習の機会として、ゼロカーボン講座を実施しました。留萌合同庁舎において、株式会社 JEPLAN 取締役執行役員会長の岩元美智彦氏を講師として迎え、リサイクルに関する講演会を開催したほか、ゼロカーボンフェアで使用したパネルと木のおもちゃを展示しました。

また、留萌市・遠別町・天塩町においては、振興局職員によるゼロカーボンに関する講話と、北海道地球温暖化防止推進員によるエコクッキング教室、3Rや省エネ、SDGsに関する講話等を実施しました。

■工作体験の様子（天塩町）



■ゼロカーボンフェア（留萌市）



### 3 環境保全に関する啓発

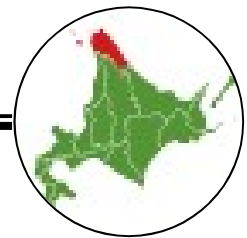
#### (1) 海の漂着物展

留萌管内は全市町村が日本海に面しており、海岸には毎年多くのゴミや流木が漂着します。留萌振興局では6月の環境月間に合わせて「海の漂着物展」を開催し、留萌管内の沿岸に流れ着いたゴミや流木を展示するほか、海岸漂着物によって被害を受けた動物のパネルを掲げ、海岸漂着物に関心を高めてもらう活動をしています。

#### (2) 地球温暖化防止月間

12月の「地球温暖化防止月間」では、多くの人々が地球温暖化防止に向けた行動を起こすきっかけとなるよう、地球温暖化に関するパネルの展示やDVDの上映、太陽光発電で動くミニソーラーカーなどの再生可能エネルギーを使った模型や、遠別町の小学生が環境教室で作った作品を展示しました。

## ＝【宗 谷】



### 1 礼文島の高山植物を守るために

利尻礼文サロベツ国立公園の礼文島は、レブンアツモリソウやレブンウスユキソウをはじめとした固有の植物のほか、丘陵状の地形に約300種もの高山植物群落が生育することから、花の浮島とも呼ばれています。島内には全7コース、全長約50kmにも及ぶ自然歩道があり、関係者が協力してこれらの歩道を管理しています。

宗谷総合振興局では、令和2年（2020年）10月に、岬めぐりコースであるゴロタ岬周辺の歩道の浸食等が進み、周辺の植生へ影響を与えている箇所などを、地元NPO法人や自然ガイド、行政機関職員により、椰子繊維の土<sup>ど</sup>嚢を使用して補修を行いました。

令和4年(2022年)6月には、アツモリ感謝祭会場であるレブンアツモリソウ群生地にて、関係機関等と連携し高山植物盗掘防止キャンペーンを実施し、観光で訪れた方々に盗掘防止を呼びかけました。

今後も、礼文島の自然を守りながら、持続的な利用ができるよう官民協働による取組を進めていきます。

■高山植物盗掘防止キャンペーンの様子



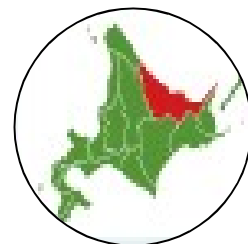
## 2 宗谷クリーンアップ運動

宗谷総合振興局では、北海道洞爺湖サミット開催(平成20年(2008年)7月)を契機として高まった道民の環境保全意識の持続を目的とした全道的な普及啓発活動の一環として、平成21年度(2009年度)から「宗谷クリーンアップ運動」を展開しており、管内各地の清掃活動への参加のほか、6月の環境月間におけるパネル展の実施や「宗谷クリーンアップサポーター宣言」の参加団体の募集を行っています。



令和4年度(2022年度)は、4箇所の清掃活動に参加し、サポーター団体数は令和5年(2023年)3月末現在で計63の個人・団体となっています。

# ＝【オホーツク】＝



## 1 ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組・環境保全に関する取組

オホーツク総合振興局では、2050年までのゼロカーボン北海道の実現に向けた様々な取組を実施しているほか、オホーツクの豊かな自然環境の保全に繋がる取組を実施しています。

### (1) ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組

ゼロカーボン北海道の実現に向け、地域住民や事業者の皆様の理解を図るため、紋別市にある北海道立オホーツク流氷科学センターと連携した科学教室や夏・冬のギザ祭りなどのイベントを実施したほか、管内市町村の連携を図るオホーツク管内ゼロカーボン連携ネットワークを設置し、取組を推進しています。

■科学教室の様子



## (2) 知床や流氷をはじめとするオホーツクの豊かな自然環境の保全

1月30日の「世界自然遺産・知床の日」にあわせ、斜里町の知床世界遺産センターにおいて、パネル展や体験会、セミナーを開催し、環境保全の大切さの理解促進を図ったほか、「流氷を守ろう！」を合言葉にオホーツク流氷トラスト運動を実施するなど、オホーツクの豊かな自然環境の保全に向けた取組を推進しています。

■知床の日 体験会の様子



## 2 オホーツク動物愛護週間イベント

9月の動物愛護週間にオホーツク総合振興局庁舎内において、令和4年度動物愛護週間のテーマ「子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物」に関する動物愛護啓発パネル・ポスターの展示、狂犬病予防パネル・ポスターの展示及びリーフレットの配布を行いました。また猫の譲渡会も行いました。

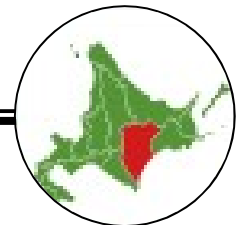
■動物愛護啓発パネル・ポスター展示



■猫の譲渡会



# ＝【十 勝】＝



## 1 日高山脈襟裳国定公園の風景写真パネル展の開催

令和4年(2022年)9月、日高山脈襟裳国定公園の国立公園化の周知啓発のため、国定公園の風景写真パネル展を開催しました。十勝管内在住の写真家が撮影した風景写真や、国定公園の特徴を掲載したパネルを展示しました。

■国定公園パネル展の様子



## 2 動物愛護パネル展の開催

令和4年(2022年)9月の動物愛護週間に令和4年度(2022年度)の動物愛護週間テーマ「子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物」のポスター、保護犬猫の写真パネル、北海道動物愛護センター(道東地区)実証事業で作成した啓発ポスターを展示しました。

■動物愛護週間パネル展の様子



### 3 地球温暖化防止対策イベント「ガイアナイト」の実施

「北海道クールアース・デイ」と連携して、近接する期間に地球温暖化防止に向けた取組を行っています。令和4年度（2022年度）は帯広市図書館、芽室町図書館、幕別町図書館、音更町図書館の協力のもと各図書館において啓発チラシを同封したキャンドルセットを配布し、地域の皆様が各自、自宅でキャンドルを灯すことで、地球環境に思いをめぐらせる機会につなげる取組を行いました。

■ガイアナイトの様子



### 4 環境保全の推進に向けた取組

#### (1) 先進地視察バスツアー

令和4年（2022年）10月に、「ゼロカーボン北海道」の理解促進や、自発的な行動変容につながるきっかけづくりとして、管内の高校生を対象としたバスツアーを実施しました。ツアーには管内の高校生12名が参加し、上士幌町のバイオガスプラントや買物支援ドローンによる配送を視察しました。また、当日は札幌からの高校生も視察に訪れており、視察で学んだ事についての意見交換も行いました。

■先進地視察バスツアー



#### (2) ゼロカーボンセミナーの開催

ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組の理解向上と、一人一人の自発的な行動を促す機会とするため、令和5年（2023年）3月に地域住民を対象とした「今と未来をつなぐゼロカーボンセミナー」を開催しました。科学者や母の視点からみたゼロカーボンに対する想いを室蘭工業大学大学院工学研究科の高瀬氏から、また、地球温暖化への適応について北海道地球温暖化防止活動推進員の高桑氏からお話をいただいた後、参加者の皆様からも様々な質問があり、活発な意見の交換が行われました。

■ゼロカーボンセミナー



#### (3) とかち・市民『環境交流会 2022』への出展

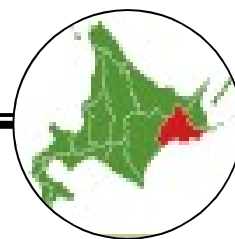
令和4年（2022年）11月に帯広市が主催した「とかち・市民『環境交流会』2022」に出展しました。水素自動車 MIRAI・電気自動車といった次世代自動車の展示、給電デモを参加者に体験してもらったほか、ゼロカーボン北海道やリサイクル認定制度、外来種問題のパネル展示、工作キット等啓発グッズの配布などを実施し、様々な視点から環境について関心をもってもらった機会となりました。

■水素自動車 MIRAI





## ＝【釧路】



### 1 タンチョウ越冬分布調査

タンチョウ越冬分布調査は、北海道が環境省の委託を受け、関係機関（市町村、教育委員会、釧路市動物園など）の協力を得て、毎年12月と1月の2回行っています。平成29年度（2017年度）からは、北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会社（JAL）が、令和元年度（2019年度）には、初めて釧路市以外の小学校が参加するなど、調査者が増え、きめ細やかな調査が可能となりました。



この調査は、タンチョウの保護増殖を図る上での重要なデータとなるだけでなく、小・中学校の児童生徒の環境教育や関係機関の相互連携の推進などにも役立っています。

令和4年度（2022年度）は、12月に10振興局で、972羽（うち釧路管内707羽）、1月は8振興局で1,344羽（うち釧路管内1,211羽）が確認されました。

### 2 環境月間パネル展（釧路市主催）への共催

「環境月間パネル展」は、釧路市主催のイベントで、環境問題への理解が深まるパネルが多数展示され、環境への思いを共有できる場となっており、釧路総合振興局は平成30年度（2018年度）から共催団体として出展しています。

令和4年度（2022年度）は、前年度より規模を拡大し、6月の環境月間に併せ、5～6月に釧路市の6カ所の公共施設及びイオンモール釧路昭和で1週間ずつ（計7週間）開催され、釧路総合振興局では、地球温暖化の緩和と適応やヒグマとの共存をテーマにパネルを展示したほか、省エネの促進のため啓発グッズの配布などを行いました。

■環境月間パネル展の様子



### 3 不法投棄防止に向けた街頭啓発の実施

釧路総合振興局では、10月の廃棄物適正処理推進月間に併せ、令和4年（2022年）10月24日、「イオンモール釧路昭和」において、公益社団法人北海道産業資源循環協会道東支部と合同で不法投棄防止に向けた啓発活動を行いました。「不法投棄は地球を汚すレッドカード」と訴えかけるのぼりを掲げ、ティッシュ・軍手・エコバッグなどを配布し、不法投棄が犯罪であることを呼びかけました。

■不法投棄防止に向けた街頭啓発活動の様子



### 4 くしろガイアナイト2022～みんなでめざそうゼロカーボン～における普及啓発の実施

釧路では平成20年（2008年）から断続的に、ろうそくの灯りのもとで地球環境を考えるガイアナイトを開催しています。

令和4年度（2022年度）は前年度同様「おうちでガイアナイト」として、釧路市こども遊学館でパネルを展示、啓発グッズを配布したほか、配布したキャンドルを自宅で点灯してもらい、SNSを用いて景品の当たるキャンペーンを実施しました。

■ガイアナイトの様子



## 5 ゼロカーボン北海道の推進について

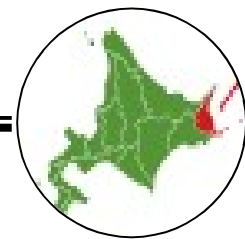
地球温暖化対策として世界的に脱炭素の動きが加速する中、釧路管内においては全ての市町村が『ゼロカーボンシティ』を宣言しています。

釧路総合振興局では、「市町村支援」、「市民、企業の取組促進」、「職員の率先実行」の3つの柱で取組を進めています。また、「ゼロカーボンくしろ・地域の話題」と称して、地域における団体等の地球温暖化対策に繋がる取組を振興局のホームページ、SNS 等による情報発信を行っており、団体等が実行できる取組を管内全体で共有することで、意識の向上及び機運の醸成を図り、ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組の加速を推進しています。

### ■「ゼロカーボンくしろ・地域の話題」



## ＝【根 室】＝



### 1 世界自然遺産・知床の日

根室振興局では、1月30日の「世界自然遺産・知床の日」について、道民に広く浸透させることを目的として、令和5年（2023年）1月23日～31日までの間、振興局の道民ホールにおいて、パネル展を実施し、「世界自然遺産・知床の日」の啓発活動を行いました。

■パネル展の様子



### 2 根室地域産エゾシカ肉の有効活用促進事業における料理教室の開催など

根室管内で捕獲されるエゾシカの肉を有効活用することを目的として協議会を設立し、平成30年（2018年）から、根室産エゾシカ肉（根室ディア）の知名度向上や流通促進のための取組を進めてきました。

令和4年度（2022年度）は、一般家庭における根室ディアの消費拡大を図るため、中標津町で一般向け料理教室と親子向け料理教室の開催、根室市ではスーパーマーケットにおいて2日間の実演試食会を開催し、エゾシカ料理の普及啓発を行いました。

■料理教室の様子



■実演試食会の様子



### 3 エコスクール・地球環境モニタリングステーション-落石岬説明会の開催

子どもたちが地球温暖化などについて理解を深めることにより、環境と人間の関わり、環境保全の重要性を学ぶことを目的として、平成10年（1998年）から、国立環境研究所地球環境研究センターの協力のもとエコスクールを開催しています。

令和4年度（2022年度）は、根室市と共同で6月27日（月）に開催しました。根室市立海星小学校及び同落石小学校5、6年生の生徒22名を対象に、北海道地球温暖化防止活動推進員による地球温暖化やゼロカーボンに関する環境学習会や、国立環境研究所による落石岬地球環境モニタリングステーションの見学会を行いました。

■当日の様子（左：環境学習会 右：地域環境モニタリングステーション見学会）



#### 4 ねむろ3R・ゼロカーボンパネル展の開催

ごみの減量や再利用などを旨とする取組である「3R」と、地球温暖化対策として温室効果ガスの排出を減らすことを旨とする「ゼロカーボン」をテーマとしたパネル展示「ねむろ3R・ゼロカーボンパネル展」を根室振興局で開催しました。

3Rやゼロカーボンに関するパネルの展示とともに、パンフレットや啓発物品を来庁者に配布したほか、海ごみに関する動画を放映し、3Rの取組がゼロカーボンへの取組にもつながることを発信しました。

■ねむろ3R・ゼロカーボンパネル展の様子

